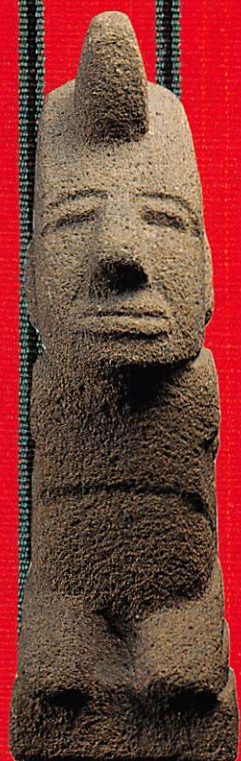


第5回 特別展

マヤ

歴史と民族の 十字路口

新大陸に渡った
モンゴロイドの末裔たち



1993 **2/9** (火) ~ **3/21** (日)

開館時間 9時30分~16時30分

休館日 月曜日 2月16日・3月20日

特別展観覧料

一般	高校生・大学生	小学生・中学生
250(200)円	80(50)円	50(30)円

* かつこ内は10人以上の団体の場合

■ 主催 北海道立北方民族博物館
たばこと塩の博物館

後援 外務省 文化庁 グアテマラ大使館
協力 グアテマラ国立考古学民族学博物館
グアテマラ国立人類学歴史学研究所
ボボル・ヴァ博物館 東京家政大学 京都文化博物館
コンピュータ・システム株式会社 NHKプロモーション



北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093 北海道網走市字潮見313-1

☎ 0152-45-3888



こうもりを象した石像
先古典期後期 (B. C. 500～A. D. 200)
グアテマラ国立考古学民族学博物館収蔵



人物を浮彫りした三脚円筒土器
古典期前期 (A. D. 200～600)
ボボル・グフ博物館収蔵



帽子をかぶり鼻飾りを付けた女性(土製ガラガラ)
古典期後期 (A. D. 600～1000)
ボボル・グフ博物館収蔵

数万年前に北東ユーラシアからアラスカをへて北アメリカに移動した人類集団は、狩猟採集民として南北アメリカ全体に拡散し、人類史のなかでも最も短時間で大きな空間的移動と広大な未知の領域への適応をとげました。このような新大陸での拡散と適応のなかで、マヤをはじめとするメソアメリカ地域と南アメリカ中央アンデスに住みはじめた人びとは植物の栽培に基づき、新大陸の二大古代文明圏として知られる都市文明を発達させました。今回の特別展では、マヤ文明に焦点をあて、コロンブスのアメリカ到達以前にくりひろげられたマヤの古代文明と今日のマヤの人びとが受け継いできた伝統文化の一端を紹介します。

マヤ文明

古代マヤ文化は金属器や車輪の利用を知らなかったにもかかわらず、わたしたちにもなじみの深いトウモロコシなどの農耕を生活の基盤に、神殿都市の建設、石彫や土器にみられる美術表現、高度な天文知識・暦、特異な絵文字などをともなう高度な文明を伴い、歴史のなかで盛衰を繰り返してきました。マヤ地域は自然環境や文化期、文化内容の違いから、温暖で肥沃な土地にめぐまれたグアテマラ中央高地から太平洋岸にいたる「南部地域」、熱帯雨林の「中部地域」、石灰質地盤のひろがる乾燥したユカタン半島北部の「北部地域」の三地域に分けられます。

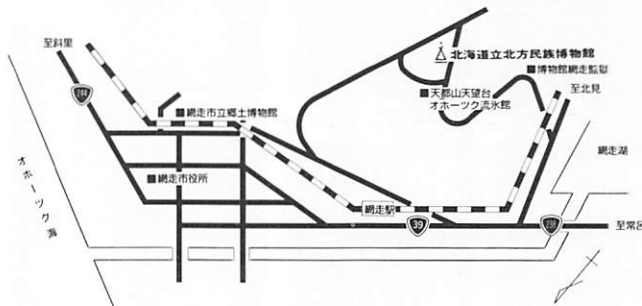
かつて「マヤ文明」は密林に放棄された壮麗な石造神殿が数多く残されている中部・北部の低地文化として神秘的にとらえられてきました。しかし南部地域こそが古代からマヤ文明の源であり、現在も大部分のマヤ語を話す人びとが生活する豊かな地域としてマヤ文化の歴史そのものを包括していることが知られるようになってきました。

マヤの人びと

16世紀にスペインに征服されたマヤの人びとは、19世紀はじめにスペインからの独立をはたしましたが、こうしたヨーロッパ文明の影響のなかで、マヤの人びとはおどろくほど伝統文化を保存し継承してきました。祖先から受け継いだトウモロコシやトマト、カボチャ、インゲンマメ、トウガラシなどさまざまな物資が取り引きされるメルカード(市)には、各村独特の伝統的な色彩、文様の衣装を身に着けた人びとが集まります。



いつも賑わっているメルカードの野菜売場
(サンティアゴ・アティトゥン)



平成4年度第2回講演会

『新大陸の古代文明と人びと』

講師 大貫 良夫氏(東京大学教授)
2月21日(日) 14時から当館講堂にて
入場料無料

平成4年度第5回講座

『アイヌ考古学』

講師 宇田川 洋氏(東京大学助教授)
3月7日(日) 14時から当館講堂にて
入場料無料



北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093 北海道網走市字潮見313-1

☎0152-45-3888